

[佳作]・[経済同友会賞]

一步、看護師へ



宮城県白石高等学校 看護科3年 西方七海

「ありがとうございます。」

視界がにじみました。胸が熱くなりました。私が初めて受け持たせていただいた患者様は、肺がんの終末期の方でした。もう疾患を治すための治療はしておらず、最期に残された時間を苦痛なく過ごされるために入院していました。初めての受け持ち実習で突然終末期の患者様を受け持たせていただき、初めは不安でいっぱいでした。実習が始まって数日間、気が付けば日々の行動計画表は毎日同じ看護の内容でした。周りは患者様に合った看護を計画している中、私はその患者様のために何をすれば良いのか、日々悩んでいました。

そんな迷っている私に実習引率の先生が問いかけてくれました。

「最期にこの患者様にどう生きてほしい？」

とても重くて難しい質問でした。たくさん考え悩んだ末に、一つのゴールにたどり着きました。それは「終末期の患者様にとって大切なことは、自分らしく生きてもらうこと」でした。いくら病室で最期を過ごすからと言っても、周りに流されて生きてほしくない、もっと自分を出してやりたいことをしてほしい、そう思いました。

その日から、患者様とのコミュニケーションを通して性格を読み取ったり、やりたいことを聞いてみたりしました。そのコミュニケーションの中で患者様から、

「俳句を詠みたい。」

と言われました。患者様は、入院される前俳句を

習っており、俳句が一番の趣味でした。いつも病室ではすることがなく寝ている時間を、患者様が俳句を考え、私が書くという形で一番の趣味をして過ごすことができました。そのことが患者様にとっても私にとっても大変重要で意味のある時間となりました。あの時の楽しそうな患者様の表情や、身振り手振りを、私は忘れません。

また、実習最終日には、午後から車イスに乗り外を散歩しました。何日か前から実行したいとは思っていましたが、患者様から頸部の痛みを訴えられていて、散歩は難しいだろうと思い話題にしていませんでした。しかし、最終日なので勇気を出して言ってみようと思い、お誘いしてみました。

すると、

「いいですね。行きましょう。」

と言われました。真上からの太陽の暑さを感じながら、白石の景色を眺めて、様々な話をしました。普段は冷房の効いた病室の中において、気温を肌で感じることはできません。しかし久しぶりに外に出て、患者様自身の肌で夏の太陽の暑さを感じることができました。患者様はその暑さに驚きながらも、私からは嬉しそうに見えました。頸部の痛みの心配をし、時折声をかけながら三十分程度散歩をしました。散歩をし終えた後、もう頸部が辛いだろうと思い、病室に戻ろうと思いました。しかし、「まだ戻らずに座っていたい。」

と言われ、ナースステーションで患者様の教師時代のアルバムを見ることにしました。いつもリハ

ビリの時は十分も経たずに頸部が痛くなり、姿勢が崩れてしまっていました。しかしこの日は散歩三十分、ナースステーションで三十分、計一時間近く座位を保持できていました。そのことに喜びを感じつつさらに嬉しかったことは、患者様自身が寝ることを選ばず起きていることを選んだことです。昼間の昼寝の時間の減少や昼夜逆転の予防の目的でも、行った散歩が、まさに結果として繋がりました。その時の患者様の表情は、受け持ち期間中見ていた中で、一番良い表情でした。指導者さんや実習引率の先生からも、
「今日が一番状態良いですね。」

と言われ、嬉しかったです。私がしたい看護をすればいい、周りもやっているから私も真似しよう、おそらくこうだろうから言わなくてもいい、最初はそう思っていました。でも実習引率の先生の一言で変わりました。患者様に喜んでもらえるように、自分自身を出せるように、そう思えるようになりました。たった一週間の短い実習で初めて出会った患者様の喜びを共感できたこと、患者様にとってプラスとなる看護を提供できたこと、その達成感は、今でも色あせず残っています。

そしてその達成感は、私の中でやりがいとなりました。今回の実習で時間をかけて一人の患者様

を受け持たせていただき、その中で将来したいことが見つかりました。救急などで多くの患者様を対象に看護をすることも素晴らしいことだと思いますが、私は一人の難病の患者様に時間をかけて看護を行える病院で働きたいと思い始めました。どんな患者様でも、どんなに辛い状況でも、その人らしさを大切にしてもらいたいと思います。そうすることで、疾患の治療だけでなく精神面のケアにも繋がると思います。

「病気は辛いけれど、心は何だか元気だよ。」

そんな風に言っていただけなのが目標です。決して簡単なことではないけれど、目標とした言葉を言っていただけのように努力していきたいと思っています。

最後の挨拶の時、

「ありがとう。」

と言われました。その言葉の重さに、視界がにじみました。胸がいっぱいになりました。全力で悩んで考えて良かったと思いました。

これからの実習でも、失敗を恐れずに自分のなりたい形に近づくことができるように挑戦していきたいです。今回の患者様から学んだこと、感じたこと、刺激を大切にしていきたいです。

